

日本人骨盤内臓器ノ局所解剖學的研究 (承前)

The Examination About The Topographical Anatomy
Of The Pelvic Viscera In Japanese.

By

Dr C. CHIBA.

From the Anatomie Institute of the Kyoto Imperial University (Director Prof. Dr. B. Adachi.)

京都帝國大學醫學部解剖學教室(足立教授指導)

大學院學生 醫學士 千葉 忠 恕

第十項 直腸横皺襞

(備考) 横皺襞乃至直腸内腔ノ狭窄狀態ハ正中斷面ノミヨリ之レヲ窺ヒ得タルハ少數ナリ。依而適宜長軸ニ添フテ直腸ヲ切開シ以テ内腔所見ヲ明カニセリ。(以下附表(五)參照)

一、横皺襞ノ數

成人及ビ小兒計二七例調査ノ結果ニヨレバ一乃至五個ニシテ三個ヲ有スル例多數ナリ。(二七例中二三例) 成人及ビ小兒計二七例(内小兒二例)

一個	二例 (No. 23, 46)
二個	七例 (No. 27, 40, 44, 7, 13, 31, 32)
三個	一三例 (No. 3, 4, 5, 8, 9, 10, 11, 14, 15, 20, 25, 26, 42)
四個	一例 (No. 6)
五個	一例 (No. 2)
欠如	三例 (No. 41, 43, 45)

初生兒二例ハ何レモ二個トス (No. 51, 64)

二、横皺襞ノ幅

成人二一例中調査ノ結果(横皺襞ノ最大ナルモノヲ各別ニ就テ測ル)三乃至二五耗ニシテ平均一四・九耗ヲ得タリ。而シテ其ノ幅二三乃至二五耗ヲ算セルモノハ何レモ直腸著シク膨滿セル例ナリ。

成人二一例

三―二五耗、平均一四・九耗

三―一〇耗 七例 (No. 3, 9, 10, 26, 27, 15, 46)

一―一二〇耗 一〇例 (No. 2, 4, 5, 7, 8, 13, 14, 25, 40, 42)

二―一二五耗 四例 (No. 11, 20, 23, 44)

三、横皺襞ノ形狀

横皺襞ノ形狀ハ大多數例ニ於テハ從來人ノ唱ヘシ如ク半月狀ヲ呈スレドモS字狀又ハ螺旋狀、瞳孔狀、環狀等ノ異型モ稀ニ見ルコトアリ。又二個ノ相對的ニ生ジタル半月狀皺襞ガ上下ニ極メテ相接近シテ存シ、爲メニ一見瞳孔狀ノモノト見誤リ易キガ如キモノモアリ。而シテ是等ノ横皺襞ハ前後左右種々ノ腸壁部位ヨリ發生セルモノニテ、從ツテ尙之レヲ細別シ得ルモノトス。(挿圖二參照)

四、何型ガ多キカ

成人二二例、小兒及ビ初生兒各二例宛合計二六例ニ就テ皺襞數七〇個ヲ調査セルニ左ノ如シ。(附表(五)參照)

左壁ヨリ起ルモノ三八個

右壁ヨリ起ルモノ二三個

前壁ヨリ起ルモノ二個

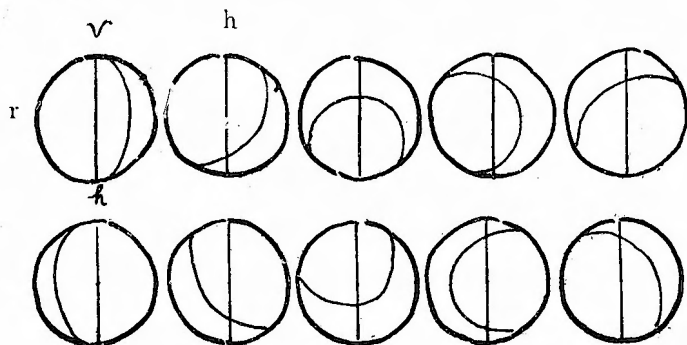
(イ)半月狀

(但シ二個相接近シテ存セル一例(No. 8)ノモノヲモ此ノ内ニ含ム)

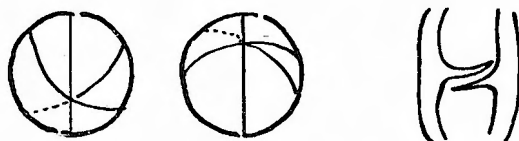
〔後壁ヨリ起ルモノ二個〕

挿 圖 (三)
直腸横皺襞ノ形状 (Shema).

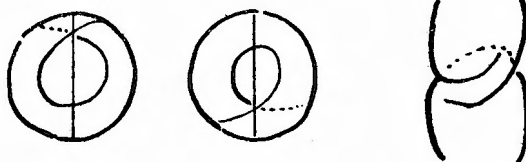
1. 半月狀



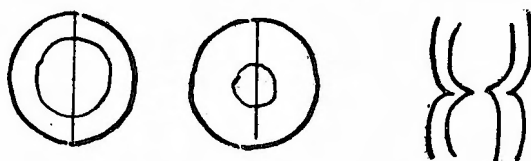
2. (半月狀ガ2個相重ナルモノ)



3. 螺旋狀(S字狀)



4. 瞳孔狀(環狀)



(ロ)螺旋狀

前壁ヨリ起ルモノ一個 (No. 40 II)
後壁ヨリ起ルモノ二個 (No. 14 II. 21 II)

(一) 瞳孔狀二個 (No. 26 III, 27 II)

更ニ半月狀ノモノヲ細別スレバ左表二十一ノ如シ。

第二十一表 (附表(五)参照)

皺襞ノ起側	皺襞ノ廣ガリ	No. (但シ4ⅢハNo. 4ニ於ケル) 第Ⅱ皺襞ヲ示ス	例數
右	右側ニトバマルモノ	4Ⅲ, 5Ⅲ, 9Ⅲ, 14Ⅲ, 23Ⅰ, 31Ⅰ, 64Ⅲ, 10Ⅲ, 42, 44Ⅲ, 32Ⅲ, 64Ⅰ, 6Ⅲ,	13
壁	前後壁ノ何レカ一例ニ亘ルモノ	2Ⅳ, 2Ⅴ, 3Ⅰ, 15Ⅰ, 26Ⅲ, 15Ⅲ, 8Ⅲ, 11Ⅲ, 13Ⅰ, 26Ⅰ,	10
左	左側ニ留ルモノ	2Ⅰ, 2Ⅲ, 5Ⅲ, 9Ⅲ, 14Ⅰ, 25Ⅲ, 40Ⅰ, 32Ⅰ, 51Ⅰ, 64Ⅲ, 7Ⅰ, 8Ⅰ, 9Ⅰ, 10Ⅲ, 20Ⅲ, 25Ⅲ, 42Ⅰ, 31Ⅲ, 51Ⅲ, 6Ⅰ, 6Ⅲ, 6Ⅳ	22
	兩側ニ亘ルモノ	4Ⅲ, 5Ⅰ, 42Ⅲ, 46Ⅰ, 11Ⅰ, 11Ⅲ, 45Ⅰ	7
壁	前後壁ノ何レカ一例ニ亘ルモノ	3Ⅲ, 3Ⅲ, 8Ⅲ, 15Ⅲ, 27Ⅰ, 4Ⅰ, 7Ⅲ, 13Ⅲ, 20Ⅲ	9
前壁	左右兩側ニ亘ルモノ	2Ⅲ(右前), 51Ⅲ	2
後壁	左右兩側ニ亘ルモノ	10Ⅰ, 25Ⅰ	2

文献記録ニヨルニ横皺襞ノ數ニ就テハ
 ① Jonnesco (zit. nach Merkel) ①一個トシ
 Merkel ①二個トシ、Houston (zit. nach
 Merkel) ①三個又ハ時トシテ四個トシ、
 Otis, Jossel u. Waldeyer, Cunningham 等
 ハ普通三個、時トシテ四乃至五個トシ、
 又 Pardaeben ハ五個アルコトアリトセ
 リ。之ヲ邦人例ト比較スルニ殆ンド大差
 ナシト云フコトヲ得。Merkel ハ五ヶ月胎
 兒ニ於テ横皺襞ヲ認メタリト云ヘリ。又
 同氏ノ記載ニヨレバ Baur ハ四乃至五ヶ
 月胎兒ニ之ヲ認メ、Charpy ハ六ヶ月胎
 兒ニ之ヲ認メタリト云ヘリ。予ハ邦人ニ
 於テ小兒及ビ初生兒ニ於テ極メテ發達セ
 ルモノヲ認メタリ。(第二十二表参照)

上述第二十二表中(No. 51)ハ直腸著明

ニ膨滿シ「ギブス」模型ニヨリ極メテ見事ナル所見ヲ得タリ(附圖Ⅰ第四圖参照)尙以上ノ初生兒ノ他ニ生後三日間(臍帶附

第二十二表 (附表(五)参照)

	No.	數	肛門ヨリ 順位	側(發生)	幅(耗)	ドウグラス氏窩トノ關係 (但シ主ナルモノニ就テ)
小兒♀	31	2	I II	右左	7 20	7 上 (耗)
小兒♀	32	2	I II	左右	5 10	同 高
初生兒♂	51	3	I II III	左前(左右) 右	2 7 3	同 高
初生兒♀	64	3	I II III	右右左 左	3 2 2	同 5 高上

着) 胎兒(No. 49, 50)ニ於テハ肛門ヨリドウグラス氏窩底ノ稍々下部迄直腸粘膜ガ數條ノ縱走皺襞ヲ形成シ、該部ニ於ケル橫走セル薄弱ナル橫皺襞トモ云フベキモノニ終ルヲ見ル。(附圖II第十一圖参照)且ツ此ノ橫皺襞ノ痕跡ヲ呈セル部ハ直腸外面モ稍々陷入絞扼セラレタルガ如キ形狀ヲ示シ、恰モ橫皺襞ノ發生狀態ヲ示スガ如キモノアリタリ。橫皺襞ノ幅ニ於テ見ルニ、Luschka ハ八耗トシ、Paterson ハ一三乃至一九耗トセリ。予ノ例ハ平均一四・九耗ナリ。橫皺襞ノ形狀ニ就テハ多數ノ學者ハ半月狀或ハ鎌狀トセルガ Paterson ニヨレバ時トシテ螺旋狀ヲナセルモノアリ、或ハ同一地平面ニ於テ對生的ニ二個相重リテ存スルコトアルト云フ、Houston (zit. nach Merkee) ニヨレバ同ジク螺旋狀及ビ囊狀ヲ呈セル辨狀ノ橫皺襞ヲ見タルコトアリト云ヘリ。之レ亦予モ稀ナルガ認メタル處ナリ。

五、著シク發達セル橫皺襞ノ順位

多クノ場合ニ於テ肛門ヨリ上方ニ數ヘテ第二位ニアル橫皺襞ガ最モ發達ス。即チ左ノ如シ。

(備考) I、II、III等ハ肛門ヨリ上方ニ數ヘタル橫皺襞ノ順位ヲ示ス(二九例調査)(附表(五)参照)

(イ)五個アルモノニテハIIIガ最モ發達ス。一例 (No. 2)

(ロ)四個アルモノニテハIIIガ最モ發達ス。一例 (No. 6)

Iガ發達セル場合、二例 (No. 10, 25)

IIガ發達セル場合、八例 (No. 4, 5, 9, 14, 20, 42, 51, 64)

(ニ)三個アルモノニテハIIIガ發達セル場合、二例 (No. 3, 21)

II 及び III が共に發達セル場合、二例 (No. 8, 15)

I、II、III の何レモ發達セル場合、一例 (No. 11)

(ニ) 二個アルモノニテハ
I が發達セル場合、一例 (No. 44)
II が發達セル場合、六例 (No. 7, 13, 27, 31, 32, 40)

(ホ) 一個アルモノ二例 (No. 23, 46)

(ヘ) 全ク缺如セルモノ三例 (No. 40, 43, 45)

諸家 (Merkel, Otis, Jössel u. Waldeyer, Kohrausch, Cunningham) ニヨルニ普通三個ノ横皺襞中其ノ中央ニ位スルモノ最モ發達シ且ツ常存性ナリトセリ。然シ Bardeleben ニヨレバ肛門ニ最モ近キモノハ屢々缺如スルコトアリト云ヒ、又 Jonnesco (zit. nach Merkel) ハ諸家ノ說ニ反シ横皺襞ハ二個ナリトシ、諸家が肛門ニ最モ近キ横皺襞ト云ヘルモノヲ其ノ部位ニ認メズト記載セリ。

六、肛門ニ最モ近キ横皺襞ノ發生側

之レガ左側壁ヨリ發生セルモノガ最モ多數ナリ。即チ二六例中右側七例、左側一六例、後側三例トス。多クノ學者モ亦肛門ニ最モ近キモノハ左側トセリ。然シ Houston (zit. nach Merkel) ハ之レヲ右側トセリ。

七、横皺襞三個乃至五個ヲ數フルモノ、内最上位ノモノ、發生側

之ガ左側壁ヨリ發生セルモノ最モ多シ。即チ一六例中左側一三例、右側三例トス。多クノ學者ハ之レヲ左側トセルガ、Houston (zit. nach Merkel) ハ左後側トシ、Jonnesco (zit. nach Merkel) ハ左右不定ナリトセリ。

八、著シク發達セル横皺襞ノ發生側

最モ發達セル主ナル横皺襞ハ成人二二例、小兒二例、初生兒二例計二六例三〇個ニ就テ見ルニ、左側ヨリ發生セルモノ最モ多シ。即チ左ノ如シ。

左側 一六個 (No. 2H, 3H, 4H, 6H, 7H, 8H, 1H, 11H, 15H, 20H, 26H, 27H, 44H, 46I, 31H, 13H)
 右側 九個 (No. 5H, 8H, 9H, 11H, 15H, 23I, 42H, 32H, 64H)
 後側 四個 (No. 10I, 14H, 25I, 40H)
 前側 一個 (No. 51H)

(備考 No. 2H……等ハ第二例ノ有セル下ヨリ數ヘテ第三位ノ横皺襞ナルコトヲ示ス。以上ハ(五)ヲ参照スベシ)

此ノ如ク著明ナル横皺襞ハ左側ヨリ發生セル場合多シトスレドモ、既ニ(五)ニ述ベタルガ如ク横皺襞三個ヲ有スル例ニ於テハ、其ノ中央ノモノガ最モ發達セルコト多シ。斯ク三個ヲ有スル例ニ於テ其ノ中央ノモノ、發生セル例ハ何レナルカヲ一一例ニ就テ見ルニ大多數例ニテハ右側ヨリ發生セルコト左ノ如シ。

右側 八例 (No. 5, 8, 9, 11, 14, 15, 42, 64)
 左側 一一例 (No. 4, 20)
 前側 一例 (No. 51)

以上ノ事實ハ Kohlrausch ガ横皺襞三個ヲ有スル場合ニハ其ノ中央ノモノ最モ發達シ、且ツ右側ヨリ發生スルコト多シト記載セルコトニ一致セリ。

九、所謂コールラウシユ氏横皺襞ニ就テ

予ノ各例ニ於テハ既ニ前段(五)ニ述ベタルガ如ク、最モ發達セル横皺襞ハ之レヲ五個乃至四個ヲ有セル場合ハ其ノ第三位(下ヨリ數ヘテ)ノモノ、三個ヲ有セル場合ハ其ノ第二位(中央ノモノ)ノモノ、二個ヲ有セル場合ハ其ノ第二位(中央ノモノ)ノモノヲ以テ多シトセルガ是等ノ部位ニアル横皺襞ハ稍々コ氏横皺襞ニ匹敵セルモノト云フベシ。依而是等ノモノヲ所謂コ氏横皺襞トシテ以下ノ事項ヲ調査セリ。(但シ一個ノミヲ有セル場合ハ暫ク之ヲ加算セズ)

(イ)發生セル壁側ニ就テ見ルニ二六例調査ニヨレバ右側ヨリ發生セルモノ最モ多シ。即チ左ノ如シ。

右側 一四例 (No. 2, 5, 6, 8, 9, 10, 11, 15, 23, 26, 32, 42, 44, 64)

左側 八例 (No. 3, 4, 7, 13, 20, 25, 31, 46)

後壁 二例 (No. 14, 27, 51)

前壁 一例 (No. 40)

コ氏皺襞發生側ニ就テハ石川氏ニヨレバ二一例調査ニテ右側ガ左側ヨリ多シトセリ。歐人ニ就テハ Kohrausch'sche Falte (Kohrausch) 或ハ Plica transversa recti (Waldeyer) ノ發生側ニ關シテ Kohrausch ハ右側ニシテ前後兩壁ニ亘ルトシ、Luschka ハ右側ニシテ、直腸全周ノ三分ノ二稀ニハ左側ノ一部ニ亘ルモノアリトシ、Hyrst ハ右側(或ハ前後各壁ニ亘ル)トシ、Paterson ハ前壁ヨリスト云ヒ、Takahasi ハ初生兒ニテ右側ナリトセリ。然レドモ多クノ學者 (Otis, Jössel u. Waldeyer, Merkel, Cunningham) ハ右側ヨリストテ Kohrausch ノ所説ヲ支持セルヲ見ル。

(ロ) ドウグラス氏腔底トノ關係ニ就テ見ルニ所謂コールラウシユ氏橫皺襞ハドウグラス氏腔底ト同高ナルモノ多數ナリ(二六例中一五例)然シ直腸膨滿スルトキハ之レヨリ上方ニアアルコト多シ。即チ上方ニアアルモノ十例中直腸盈状態ノモノハ實ニ九例ノ多キヲ占ム。

腔底ト同高ノモノ一五例 (No. 3, 4, 5, 7, 8, 23, 42, 51, 13, 32, 14, 15, 20, 27, 6)

腔底ヨリ上方ニアアルモノ一〇例 (No. 2, 9, 11, 25, 26, 40, 44, 46, 31, 64)

腔底ヨリ下方ニアアルモノ一例 (No. 10)

而シテ腔底ヨリ上方ノモノ成人八例ニ就テ見ルニ二〇乃至四〇耗上方ニアアルヲ見ル、初生兒及ビ小兒 (No. 64, 31) ハ各七耗上方並ニ五耗上方トス。又下方ノモノ一例(成人)ハ四〇耗下方トス。Hyrst, Jössel u. Waldeyer ハ主ナル皺襞ハドウグラス腔底ト同高ト云ヒ、Paterson ハ該腔底ノ直下ト云ヘリ。

(ハ) 骨盤後壁ノ高サトノ關係ニ就テ見ルニ成人(二〇例)ニ於テハ第二薦骨乃至會陰中央部ノ高サニ亘レドモ、直腸盈狀

態ノ三例ヲ除外スル時ハ第五薦骨以下ノモノ一五例ノ多キヲ占ム。特ニ其ノ内第三薦骨ノ高サノモノ最モ多シ(七例)之レヲ細別スレバ左ノ如シ。

第二薦骨ノ高サノモノ 一例 (No. 40)

第二、第三薦骨間ノ高サノモノ 二例 (No. 2, 11)

第五薦骨ノ高サノモノ 三例 (No. 7, 27, 44)

第五薦骨、第一尾閭骨間ノ高サノモノ 二例 (No. 25, 26)

第一、第二尾閭骨間ノ高サノモノ 三例 (No. 15, 16, 42)

第二尾閭骨ノ高サノモノ 一例 (No. 46)

會陰部中央ノ高サノモノ 一例 (No. 10)

第三尾閭骨ノ高サノモノ 七例 (No. 3, 4, 5, 6, 8, 13, 14)

成人ニテハ Kohlrausch ハ尾閭骨中央部ノ高サトセリ。初生兒ニ於テハ Takahasi ハ第二薦骨ノ高サトセリ。予ノ例ニテハ小兒ニテハ第五薦骨下端 (No. 32) 第一、第三薦骨間 (No. 3) トス。又初生兒一例 (No. 51, 64) ニ於テハ第五薦骨下端トス。

(ニ) 直腸骨盤部ニ對スル位置的關係ニ就テ見ルニ直腸骨盤部ヲ上部、中部、下部ノ三ツニ區分セバ(勿論其ノ境界ハ判然タルモノニアラズ)所謂コールラウシユ氏横皺襞ガ占居スル處ハ直腸骨盤部ノ中央部乃至其ノ中央部ト下部トノ境界ノ附近ナリ。

而シテ直腸膨滿セルモノニハ横皺襞ノ占居部位ハ高位ニアリ。即チ左ノ如シ(成人小兒二三例)

中央部、一一例 (内小兒一例)

中部ト上部トノ界、二例 (但シ直腸盈)

中部ト下部トノ界、八例（内小兒一例）
下部、二例

Kohlrausch 曰ク主ナル横皺襞ハ直腸骨盤部ノ下三分ノ一ト中三分ノ一トノ境界部ニアリト、然ルニ予ノ調査ニヨレバ之レヨリ高位ニアルモノ多シト云フベシ。

一〇、肛門ヨリ各横皺襞ニ至ル直線の距離

(イ)所謂コールラウシユ氏横皺襞ニ就テ(成人二二例)見ルニ所謂コ氏横皺襞ノ肛門ヨリノ距離ハ其ノ高下ノ差大ニシテ三七耗乃至一一五耗ナリ。然レドモ直腸膨滿セル三例(No. 11, 20, 40)八五耗乃至一一五耗ノモノヲ除キ残リ一九例ニ就テ見ル時ハ三七耗乃至八〇耗平均五五・八耗ナリ。

三七—五〇耗 九例 (No. 4, 5, 6, 7, 8, 10, 14, 42, 46)

五一—七〇耗 六例 (No. 2, 3, 9, 25, 26, 27)

七一—九〇耗 四例 (No. 15, 20, 23, 44)

九一—一一五耗 二例 (No. 11, 40)

(ロ)肛門ニ最モ近キ横皺襞ニ就テ(成人二〇例)見ルニ左ノ如シ。

(備考) 但シ横皺襞ハ只一個ノ場合ヲ除キ二個以上アルモノ、肛門ニ最モ近キモノニ於ケル統計ナリ。

肛門ニ最モ近キ横皺襞ノ肛門ヨリノ直線の距離モ其ノ高下ノ差大ニシテ一五乃至九五耗ニ亘ル。然レドモ直腸膨滿(下部膨滿ヲモ含ム)セル七例ヲ除キ残リ一二例ニ就テ見ルニ一五乃至五五耗平均三一耗ナリ。

一五一—四〇耗 一一例 (No. 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 13, 14, 42)

四一一—六〇耗 五例 (No. 20*, 25, 26*, 27*, 46)

六一—九五耗 三例 (No. 11*, 15*, 40)

(但シ*印ハ直腸下部膨滿セルモノナリ)

一一、肛門ヨリ各皺襞ニ至ル直腸後壁中央線ニ添フテ測リタル距離

(イ)所謂コールラウシュ氏皺襞ニ就テ(成人二二例)見ルニ其ノ距離ハ三五乃至一五〇耗ニシテ、直腸膨滿セル三例(No. 11, 20, 40)ヲ除キ残り一九例ニ就テ見ルニ三五乃至九〇耗平均六五・二耗トス。

{三五—五〇耗 六例 (No. 4, 5, 6, 8, 10, 14)

{五一—八〇耗 一〇例 (No. 2, 3, 7, 9, 13, 23, 25, 26, 42, 46)

{八一—一五〇耗 六例 (No. 11, 15, 20, 27, 40, 44)

(ロ)肛門ニ最モ近キ横皺襞ニ就テ(成人二〇例)(但シ横皺襞一個ノミヲ有セル例ハ之レヲ除ク)

其ノ距離ハ二〇乃至一〇〇耗ニシテ直腸特ニ其ノ下部ノ膨滿セル七例ヲ除キ残り一二例ニ就テ見ルニ二〇乃至六〇耗、平均三五耗トス(但シ直腸盈ノ例ハ九ノ(ロ)ニ述ベシ處ト同シ)

{二〇—五〇耗 一二例 (No. 2, 2, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 13, 14, 42)

{六〇—一〇〇耗 八例 (No. 11, 15, 20, 25, 26, 27, 40, 44)

文献記載ヲ見ルニコールラウシュ氏皺襞ノ部ニ關シテハ其ノ肛門ヨリノ距離ヲ石川氏ハ邦人(一五例)五五耗トセリ。歐人ニテハ Waldeyer ニヨレバ六乃至七糎、Cunningham ニヨレバ七・五乃至八・七糎、Merkel ニヨレバ六・〇乃至六・五糎トセリ。

而シテ肛門ニ最モ近キモノノ肛門ヨリノ距離ニ就テハ Waldeyer ニヨレバ四・五乃至六糎、Merkel ニヨレバ四糎トセリ。Cunningham ニヨレバコ氏横皺襞ヨリ下方ヘ二・五乃至三・七糎ノ處ニアリト云ヘリ。以上ヲ以テスル時ハ邦人ニ於ケルモノハ歐人ニ於ケルモノヨリモ稍々其ノ距離短シト云フベキナリ。

一二、横皺襞部ノ狹窄ニ就テ

成人二一例中一三例ニ於テ各横皺襞部ニ直腸内腔ガ狭窄ヲ呈セルヲ認メタリ。著シク發達セル(主ナル)横皺襞部ノ狭窄ヲ呈セルモノ八例、最上位ノ横皺襞乃至一個ノミヲ有セル場合ノ其ノ横皺襞部狭窄五例ニシテ、二個以上アル場合ニテ肛門ニ最モ近キ横皺襞部位ニハ狭窄ハ之レヲ全ク認メズ。而シテ狭窄程度如何ト云フニ鉛筆ノ太サ乃至拇指頭大ニシテ之レヲ細別スレバ鉛筆大二例(No. 26, 27)小指頭大一例(No. 3)示指頭大四例(No. 13, 15, 40, 42)拇指頭大六例(No. 4, 8, 13, 23, 25, 46)トス、又狭窄部ヲ呈セル場合ノ横皺襞ノ幅ハ一〇乃至二五耗ニシテ一般ニ廣シ。次ニ直腸内腔ノ狭窄部ト直腸額面彎曲トノ關係ヲ見ルニ左側第一彎曲ノ下界ニアルモノニ最モ多シ(一二例中九例)即チ左ノ如シ。

左第一彎曲ノ下界 九例 (No. 3, 4, 8, 14, 25, 26, 27, 40, 46)
 左第一彎曲ノ中央部 二例 (No. 23, 42)
 右第二彎曲部 一例 (No. 13)
 右第一彎曲部 一例 (No. 15)

一二、著シク發達セル(主ナル)横皺襞ノ上下ニ於ケル直腸内腔ノ虚盈状態ニ就テ之レヲ成人二二例、小兒二例、初生兒二例ニ於テ觀察スルニ、上下共膨滿セルモノニ最モ多ク(一一例)、次デ多キハ上部虚、下部膨大ノ場合トス(七例)。其他上下共稍々盈ノ場合六例、上部盈、下部虚ナル場合二例トス。更ニ年齡の關係ヲ見ルニ上部虚、下部盈ノモノ老若ニ多キガ如キ傾向アリ。(第二十三表參照)

Hunt ニヨレバ常存性横皺襞ノ上方ナル直腸内腔ハ擴張シ、該皺襞以下ハ直腸内腔ハ常ニ虚ナリトシ、Symington ニヨレバ一五例中八例ハ主ナル皺襞以下ハ直腸内腔ハ擴張シ、六例ハ上下共虚、一例ハ上部盈、下部虚ナリト云ヘリ。Kollrausch ニヨレバ主ナル直腸横皺襞以下ハ直腸内腔ガ擴大セルコト屢々ナリトセリ。

第二十三表 (附表(五)參照)

成人 26 例	No. (肛門ヨリ皺襞順位)	例數	年齡の關係
上下 擴張膨大 虚又ハ稍盈	4 II, 14 II	2	(21-35)歲 2例
上下 虚膨大	3 III, 23 II, 26 III 27 II, 40 II, 44 I, 46 I	7	(17-25)歲 2例 (49-82)歲 5例
上下 膨大	2 II, 7 II, 8 II, 11 II, 13 II, 64 II * 15 II, 20 II, 25 II, 31+ II, 51 II *	11	(16-37)歲 6例 (55-78)歲 2例
上下 稍盈	5 II, 6 III, 9 II, 10 I 42 II, 32+ II	6	(21-26)歲 5例
* 印ハ初生兒 + ハ小兒			

附 表 (六)

番 號	肛門ノ位置(以下ノ諸點ト) (ノ距離(耗))						(1)ト(4)トノ 距離ノ差	直腸中軸線ヲ 以下セル走向 度	直腸中軸線ヲ 以下セル走向 度	直腸中軸線ヲ 以下セル走向 度	直腸中軸線ヲ 以下セル走向 度	(正中斷ヲ施セル骨盤ニテス) 直立位ニ於ケル骨盤ノ地平傾度	番 號	性 別	肛門ノ中心點ハ左右坐骨結節 ニアルカ ノ結合線ノ前後方何レノ部位
	尾線距離 骨盤最下端トノ	骨盤狹部前後徑トノ	直線距離 第五薦骨 下端トノ	耻骨聯合下緣トノ	直線距離 第五薦骨 下端トノ	直線距離 第五薦骨 下端トノ									
2	53	30	63	65	52	35	12(後)	130	60	70	58.5	1	♀	線上	
3	42	55	73	45	67	33	3(後)	135	68	67	63	3	♀	一横指後方	
4	38	32	70	57	60	24	19(後)	110	68	42	65	4	♀	同	
5	50	37	85	47	60	35	5(前)	125	55	70	64	5	♀	同	
6	40	27	63	58	53	20	18(後)	90	50	40	56	6	♀	同	
7	50	28	70	46	50	47	4(前)	118	53	65	59	20	♀	同	
6	42	60	82	73	78	23	31(後)	115	68	47	62	23	♀	線上	
9	—	—	—	—	—	—	27(後)	132	78	54	—	24	♀	一横指後方	
10	63	72	95	90	83	10	31(後)	125	90	35	74	26	♀	同	
11	53	50	83	66	80	17	13(後)	125	88	37	61	27	♀	同	
13	40	46	73	62	72	23	22(後)	115	54	61	59	42	♂	同	
14	37	55	65	80	70	25	43(後)	130	66	64	58	44	♂	線上	
15	50	45	85	43	73	35	7(後)	110	49	61	73	66	♂	一横指後方	
18	40	33	70	55	55	43	15(後)	—	—	—	52	67	♂	半横指後方	
20	75	65	100	75	90	42	中央(値上)	114	56	58	52	70	♂	線上	
23	78	—	—	73	—	—	5(前)	160	90	70	48	74	♂	同	
25	47	35	75	55	68	36	8(後)	140	58	82	65	75	♂	同	
26	47	43	70	70	68	35	23(後)	138	70	68	55	84	♂	同	
27	47	40	60	63	60	10	16(後)	145	110	35	65	85	♀	半横指後方	
40	43	45	80	60	72	40	17(後)	146	78	68	50	86	♂	一横指後方	
41	60	58	90	67	90	25	7(後)	135	70	65	55	87	♀	同	

42	47	50	75	60	70	30	13(後)	115	50	65	65	89	♂	同
43	32	40	80	55	70	40	23(後)	127	60	67	62	89	♂	同
44	70	37	85	53	73	40	17(前)	110	55	55	56	90	♀	同
45	65	40	92	55	85	37	10(前)	140	65	75	68	91	♀	半横指後方
46	37	40	75	53	73	33	16(前)	90	49	41	72	93	♀	線上
32	20	29	47	42	42	23	22(後)	125	75	50	66	95	♂	一横指後方
31	23	19	38	22	32	21	1(前)	125	75	50	54	96	♀	同
(以下初生兒) (以上ノ内 No. 32 No. 31 以外ハ凡テ成人)												97	♂	線上
28	18	21	30	23	30	8		134	55	79	69			
47	10	15	27	20	23	10		120	85	35	60			
48	15	12	30	15	27	12		140	70	65	69			
49	19	20	32	20	32	7		155	88	67	70			
50	13	20	28	20	35	10		150	80	70	68			
51	10	16	25	20	25	10		130	65	65	60			
52	12	18	30	18	28	8		145	70	75	63			
53	18	19	27	23	24	10		130	80	50	50			
54	24	30	37	30	43	3		140	85	55	70			
55	25	27	35	28	41	5		150	29	60	64			
56	16	23	28	26	28	2		137	90	47	75			
57	18	18	28	19	27	10		150	85	65	65			
58	20	20	30	29	30	2		137	90	47	55			
59	15	20	30	25	28	10		135	70	65	65			
60	16	20	28	21	28	線上		133	90	43	67			
61	17	17	30	22	23	5		140	83	57	60			
62	26	18	33	18	28	12		155	75	80	65			
63	18	18	25	21	25	7		127	70	57	70			
64	27	25	29	27	30	10		125	100	25	57			
65	8	13	16	15	15	8		—	—	—	—			

第十一項 直腸會陰部矢狀彎曲ノ走向

直腸會陰部矢狀彎曲ノ彎曲度即チ骨盤部下部ノ走向ト肛門部ノ走向トノ交角度及ビ兩部ノ地平線ニ對スル各傾斜度ヲ測定セリ。但シ直腸各部ノ中軸線ニヨルモノトス。(調査ハ成人二五例、小兒二例、初生兒一九例)

(備考) 以下凡テ正中斷圖上ニ於テ測レルモノトス。以下(附表(六)參照)

一、會陰部矢狀彎曲ノ角度

成人及ビ小兒二七例(九〇乃至一六〇度)平均一二六・六度

九〇——一〇〇度	二例
一〇一——一二〇度	八例
一二一——一四〇度	一四例
一四一——一六〇度	三例

二、直腸骨盤部下部走向ノ地平傾度

成人及ビ小兒二七例(四九乃至一一〇度)平均六六度

四九——六〇度	一二例
六一——九〇度	六例
七一——八〇度	三例
八一——九〇度	三例
九一——一一〇度	一例

三、直腸肛門部走向ノ地平傾度

成人及ビ小兒二七例(三五乃至八二度)平均五六・七度

三五——四〇度	三例
四一——五〇度	五例
五一——六〇度	三例
六一——七〇度	一四例
七一——八〇度	一例
八一——八二度	一例

初生兒一九例(一二〇度乃至一五五度)平均一三八・六度

一二〇——一三〇度	四例
一三一——一四〇度	九例
一四一——一五〇度	五例
一五一——一五五度	一例

初生兒一九例(五五乃至一〇〇度)平均八〇・五度

五五——六〇度	一例
六一——七〇度	五例
七一——八〇度	三例
八一——九〇度	九例
九一——一〇〇度	一例

初生兒一九例(二五乃至八〇度)平均六二・三度

二五——三〇度	一例
三一——四〇度	一例
四一——五〇度	四例
五一——六〇度	四例
六一——七〇度	六例
七一——八〇度	四例

以上ヲ通覽スルトキハ會陰部矢狀彎曲ノ角度ニ於テハ初生兒ハ成人ヨリモ鈍ニシテ、骨盤部並ニ肛門部共ニ其ノ走向ノ地平傾度ニ於テハ初生兒ハ成人ヨリモ其ノ角度大ニシテ急斜セルヲ知ル。

第十三項 肛門ノ位置

一、肛門中心點ト尾閭骨最下端トノ直線距離

成人ニ五例中男七例(三二乃至七〇耗)平均五〇・六耗。女一八例(三七乃至七八耗)平均四九・九耗

三二——四〇耗	男二例	女五例
四一——五〇耗	男二例	女八例
五一——六〇耗	男一例	女二例
六一——七〇耗	男二例	女一例
七一——七八耗	男〇	女二例

小兒二例二〇乃至二三耗

初生兒一九例(一〇乃至二七耗)平均一七・七耗

一〇——一五耗	六例
一六——二一耗	九例
二二——二七耗	四例

成人ニ關スル記載ヲ見ルニ次ノ如シ。即チ Jügel u. Waldeyer ニヨレバ此ノ距離ハ女ニテハ三〇乃至四〇耗トシ、

Schüttoff ニヨレバ男(一八例)二〇乃至九〇耗ナリトセリ。邦人ニ就テハ石川氏ニヨレバ女一八例ニテ平均四三耗トセリ。

二、骨盤狹部前後徑(即チ耻骨縫際下緣ト第五薦骨下端トノ結合線)ニ對スル肛門中心點ヨリノ垂線距離

成人ニ四例中男七例(三七乃至五八耗)平均四四・三耗。女一七例(二七乃至

七二耗)平均四四・三耗

二七——三〇耗	男〇	女三例
三一——四〇耗	男四例	女五例
四一——五〇耗	男二例	女四例
五一——六〇耗	男一例	女三例
六一——七二耗	男〇	女二例

小兒二例一九乃至二九耗

初生兒一九例(一二乃至三〇耗)平均一九・八耗

一二——一五耗	三例
一六——二〇耗	一一例
二一——二五耗	三例
二六——三〇耗	二例

三、肛門中心點ト第五薦骨下端トノ直線距離

成人二四例中男七例(七五乃至九二耗)平均八二・一耗。女一七例(六〇乃至一〇〇耗)平均八一・四耗

六〇耗	男〇	女一例
六一——七〇耗	男〇	女六例
七一——八〇耗	男四例	女三例
八一——九〇耗	男二例	女五例
九一——一〇〇耗	男一例	女二例

四、肛門中心點ト耻骨聯合下緣トノ直線距離

成人二五例中男七例(五三乃至六七耗)平均五七・四耗。女一八例(四六乃至九〇耗)平均六一・三耗

四三——五〇耗	男〇	女四例
五一——六〇耗	男六例	女四例
六一——七〇耗	男一例	女五例
七一——八〇耗	男〇	女四例
八一——九〇耗	男〇	女一例

五、肛門中心點ヨリ第五薦骨薦骨下端ヲ通過セル地平線ニ向ツテ下シタル垂線距離(地平距離)

成人二四例中男七例(七〇乃至九〇耗)平均七六・一耗。女一七例(五〇乃至九〇耗)平均六六・九耗

五〇——六〇耗	男〇	女七例
六一——七〇耗	男二例	女五例
七一——八〇耗	男三例	女三例
八一——九〇耗	男二例	女二例

六、肛門中心點ノ兩側坐骨結節結合線ニ對スル矢狀方向ニ於ケル位置的關係

成人二九例ノ正中斷ヲ施サルモノ及ビ正中斷ヲ施シタル材料ヨリ之レヲ調査セル結果ハ左ノ如シ。

小兒二例三八乃至四七耗
初生兒一九例(二五乃至三七耗)平均二九・六耗

二五——二七耗	四例
二八——三〇耗	一一例
三一——三三耗	二例
三四——三六耗	一例
三七耗	一例

小兒二例二二乃至四二耗

初生兒一九例(一五乃至三〇耗)平均二二・一耗

一五——一八耗	三例
一九——二二耗	八例
二三——二六耗	四例
二七——三〇耗	四例

小兒二例三二乃至四二耗

初生兒一九例(二三乃至四三耗)平均二九・五耗

二三——二九耗	一一例
三〇——三六耗	五例
三七——四三耗	三例

肛門ガ該線上ニアルモノ

男六例

女三例

肛門ガ一横指後方ニアルモノ

男六例

女一一例

肛門ガ半横指後方ニアルモノ

男一例

女一例

肛門ガ半横指前方ニアルモノ

男〇

女一例

之レヲ以テ見レバ肛門ハ該線ヨリ後方ニアルモノ多シ。特ニ女ニ於テ然リ。Jössel u. Waldeger ニヨレバ肛門ハ此ノ線上ニ在リトセリ。之レニヨレバ邦人ハ歐人ヨリ肛門ハ後方ニアリトノ結果ヲ得レドモ、元來坐骨結節ニ一點ヲ設クルコトハ、極メテ不確定ナルモノナレバ此處ニハ人種の異同ニ就テハ言及スルコトヲ避ク。

七、肛門ヨリ耻骨聯合下緣迄ノ直線距離(前方)ト尾閭骨下端迄ノ直線距離(後方)トノ比較

成人二五例(男七例、女一八例)ニ就テ見ルニ肛門ヨリ前方ガ長キモノハ男五例、女一三例、之レニ反セルモノハ男二例、女四例、肛門ヨリ前後ヘノ距離ガ同長ナルモノハ女一例ニ認ム。若シ肛門ヨリ前後ヘノ距離ノ差ガ一〇耗以内ノモノハ之レヲ觀過シテ、肛門ガ兩者ノ約中央ニ位スルモノト看做ストキハ次ノ如キ結果ヲ得。即チ肛門ハ寧ロ後方ニ偏スルヲ知ル。

約中央ニアルモノ

男二例

女七例

後方ニ近キモノ

男四例

女一一例

前方ニ近キモノ

男一例

女一例

Jössel u. Waldeger ニヨレバ肛門ハ會陰ノ中央ニアリトセリ。然レドモ彼等ノ記載セル處ハ其ノ測定法ヲ明確ニ示サバレバ、人種の異同ニ就テハ論ズル能ハズ。